

18期生の奈良宿泊研修を大特集

歴史ある奈良の地で1300年前の建築に学ぶ

カレッジ通信

発行

東京建築
カレッジ豊島区池袋
1-8-6学校見学会
12月6日(金)1月23,24日(金・土)
1月30,31日(金・土)

13時から16時まで

いずれも江東実習場にて



11月12日(水)夜から15日(土)まで2年生の奈良宿泊研修が行われました。最古の木造建築から伝統建築の技能、木材の可能性や歴史・文化を学ぶ目的です。

水曜日の深夜に出発し、土曜日の深夜に戻る強行日程ですが、世界文化遺産の古都奈良の史跡・名所の建築物を研修生総勢23人で巡りました。朝6時半に奈良に到

車中一泊からの二泊三日の学習日程

着。7時の朝食後8時から東大寺を見学しました。ボランティアガイドの木原さんが建物の歴史的价值ともに建築方法も模型やイラストを用いて説明してくれました。

写真は大東寺の南大門。太古の建築技術に立ち止まる一同。奈良県の文化財保存事務所協力で、通常は立ち入り禁止の東塔の発掘調査現場を見学しました。研修生も解した梁や柱、など当時の技術の痕跡を熱心に見ていました。その後境内を薬師寺の修復工事の現場所長の石川さんがガイド、特別に西塔の内部を見学させていただきました。一日目の最後は最古の木造建築法隆



伝統的な瓦工事を見学

翌朝は8時宿を出発し、當麻寺(たいまでら)に到着しました。こちらも612年に建立された国宝と重要文化財を多

寺です。こちらも文化財保存事務所法隆寺出張所の幹田主任に解説していただきました。まずは薬師坊庫裡の修復工事を見学し、仏像をはじめとする国宝の数々も見学し、研修生も疲れを見せながらも歴史の重みを感じた様子でした。「奈良時代の社寺建築は共通点があったりなかったりと色々な発見があった」と研修生の感想でした。



恒例の法隆寺での全体記念撮影風景。別のカメラでちゃんとした写真は撮っています。

く持つお寺院です。興院本堂の解体修復工事が行われており、屋根瓦も修復中で普段は見られない伝統的な瓦工事を見学し、他にも土壁を塗る作業も体験し、貴重な現場体験となりました。境内では引率の吉井先生のガイドとなり、歴史と文化を詳しく分かりやすく説明していただき、研修生に好評でした。

続いて今井町を見学しました。江戸時代の建物が多い700件ほどの古い町並



みです。二班に分かれボランティアガイドさんに2時間ほど案内していただきました。

その今井町の一角にある重要文化財の称念寺(しょうねんじ)を訪れ、本堂の保存修復工事を見学



しました。こちらでは解体途中の建物内部を見学し、過去の修復跡の仕口から過去を考える学習が行われました。

二日目の最後は榑瀧川寺社建築の会長瀧川昭雄さんを訪れました。県内外の国宝、重要文化財の修復工事を数多く手がけられています。研修生のために約一時間ほど講演して頂きました。指し金の成り立ちから、建築技術、大工の心得など多岐に渡る内容に研修生は真剣に聞き入っていました。

平城宮跡の復元から 建築技術を学ぶ

二日目の感想は「今井町が良かった。東京では見たことがない町並みでした」、「本物の建築に生きる人に会え、良い刺激になりました」等でした。

長かった宿泊研修も最終日。元興寺

(がんこうじ)に向かいました。研修生は国宝である建物をじっくりと見学し、当時の柱や瓦から歴史を感じ取っていました。

次を訪れたのは唐招提寺。再び木原さんと合流し、70分のガイドをお願いしました。金堂をはじめ講堂、

鼓楼などの国宝を見学しました。研修生からは「歴史・文化の面を深く学習できた」などの感想が上がりました。



最終行程の平城宮跡。広大な跡地に大極殿と朱雀門が復元されて鎮座しています。大極殿から朱雀門が小さく見えました。最後には朱雀門の前で記念撮影を行いました。

岐路に着きました。

研修を終え、「三日間という短い間にこれだけのものが見れたことに感謝します」、「あつという間に終わり、思い返せばとても充実したものでした」、「この三日間は一生忘れることのない思い出になった」とそれぞれの感想を述べてい

一年生の 授業風景

ました。

来年1月23日の上

棟を目指して一年生の実習棟の製作が行われています。11月の下旬から早い班では刻みに入っています。4グループに分かれて一つの実習棟を造るため、各班毎や他班との打ち合わせが大事です。一人のミスが全体に及んでしまいます。それだけに研修生は真剣に図面描きや、墨付けを行っています。

「案内進まず」「納得まで先を考えて作業したい」、「順調に進みました」と



帰りのバスも学習

研修生からの声は様々です。

キロを記録しました。



奈良から東京までバスで約7時間。その間もカレッジ生は学習します。「日本古建築と伝統技法」1巻約50分、全7巻をバス内で上映しました。見学してきたばかりの建物が解説されていたりと、第18期カレッジ生はとても静かに見ていました。

技能五輪始まる

また木造施工法の座学の授業でも、朝顔箱の施工図描きや作製を行いました。四方に転ぶこの箱は規矩術を学ばなくては作ることができません。実習棟実習やこれからの予習的学習として役立てていきます。

構造力学実験では総重量わずか100gの桧棒を組み合わせて、トラスを作り何キロまでの錘（おもり）を吊り下げられるかを実験しました。何と最高では40

「金獲ります」の一言でした。好結果を期待します。12月1日の閉会式で結果の発表となり、次号にて結果をお知らせします。



ミニミニ通信

「漢字には意味があり地名の多くは土地の特徴等を現している」、「奈良という漢字から意味が読み取れないこれはおそらく大陸から来た人々の言葉を充てたものだろう」と教わった。

太古の日本の文化と異国の文化が交わり、歴史の分岐点になった場所。平城宮跡の草原に佇むと奈良時代に迷い込んだように思えた。